

浮橋康彦先生著書論文等目録

I 著書A 単著単行本

(国文学関係・国語教育関係)

- 1 私の国語教育 昭和54・3 私家版 一〇九P
- 2 翁草上・下 (原本現代訳) 昭和55・6 教育社 二八七P、二六九P

- 3 読む力をつける国語教育 昭和59・8 明治図書出版 二一P
- 4 書く力をつける国語教育 昭和59・8 教育出版センター 二〇五P

- 5 「日本永代蔵」 昭和63・1 桜楓社 二五八P

II 著書B 共著単行本

(国文学関係)

- 1 近世演劇の思想と伝統 昭和41・1 新読書社 P四五
〔六六「若屋道満大内鑑」〕
- 2 日本文学叢攷 昭和43・8 東洋法規出版 (西尾光雄先生還暦記念会編) P二〇一〜二二三 「西鶴における説話継

承と文学の方法」

- 3 日本文学研究資料叢書・西鶴 昭和44・10 有精堂 P二〇〇〜三二二 「西鶴文学の反語的性格」、P二一七〜二二七 「西鶴文体の一原型―「北条五代記」と「日本永代蔵」―
- 4 近世・近代のことばと文学 昭和47・12 第一学習社 (真下三郎先生退官記念会編) P二九一〜三二二 「好色一代男」の作品構造―「型」の分析による―
- 5 越佐文学散歩 上・中・下 昭和49・11 野島出版 (伊狩章・箕輪真澄・浮橋康彦監修) 「奥の細道」他合計一四六ページ分
- 6 西鶴論叢 昭和50・9 中央公論社 (野間光辰編) P一〇〇〜二二六 「西鶴説話の地方的特性について―九州の話」
- 7 説話文学必携 (新装改訂版) 日本短編物語集事典 昭和51・10 昭和59・10 東京美術 (桧谷昭彦・小林保治・高橋貢編) P一三一〜一三五 「西鶴諸国はなし」、P二三四〜二三六 「曾呂利狂歌咄」
- 8 日本文学 始源から現代へ 昭和53・9 笠間書院 (森山重雄先生退官記念の会編) P一四九〜一六四 「新可笑記」の構造をめぐって」
- 9 西鶴物語 昭和53・12 有斐閣 (浅野晃・谷協理史編)

P二二一～二二五「西鶴織留」、P二二六～二二八「西鶴俗つれづれ」、P二二九～三三二「万の文反古」、P三三三～二二五「西鶴名残の友」

10 研究資料日本古典文学4 近世小説 昭和58・10 明治書院(大曾根章介・久保田淳・松谷昭彦・堀内秀晃・三木紀人・山口明穂編) P七五～八三「西鶴諸国はなし」、P九二～九三「武道伝来記」

11 日本の近世文学 昭和58・10 新日本出版社(荒木繁・土橋寛・南波浩・伊藤博之編) P五九～九九「西鶴と近世小説の誕生」

12 説話・伝説事典 昭和59・ 角川書店

13 表現学大系(各論編7)小説と脚本の表現 昭和61・8 教育出版センター(表現学会監修) P九～九五「西鶴浮世草子の表現」

III 著書C 共著単行本

(国語教育関係)

1 文学教育の理論と教材の再評価 昭和42・3 明治図書出版(日本文学協会編) P一四〇～一五一「劇・戯曲」

2 国語教育研究講座 高等学校現代国語 第一巻 昭和42・9 有精堂(増淵恒吉編) P一四四～一六四「芥川龍之介

「羅生門」・「鼻」」

3 国語教育研究講座 高等学校現代国語 第二巻 昭和42・

10 有精堂(増淵恒吉編) P二三三～二四八「若山牧水・北原白秋」

4 国語国文学・国語教育論叢 昭和46・6 阿達義雄先生「退官記念会編 P三〇～三七」文章の種類の構造的な位置づけ」

5 高等学校 国語科教育研究講座 第十巻 昭和49・8 有精堂(増淵恒吉・三谷永一・小海永二・新田大作編) P一九二～二〇七「蕪村・一茶」

6 高等学校 国語科教育研究講座 第三巻 昭和50・3 有精堂(増淵恒吉・三谷永一・小海永二・新田大作編) P一五八～一七〇「中島敦「山月記」・「牛人」」

7 中学校 論説説明文の授業 昭和50・11 右文書院(望月久貴・長谷川孝士編) P九一～一〇二「説明文の指導の観点と教材」

8 表現と理解の国語教育 昭和53・7 泰流社(筑波大学附屬小学校初等教育研究会編)(シンポジウム記録) P一三二～一四二「『表現』の理解と『表現力』と」、P一八八～一九六「七つの要点」

9 新国語科教育講座5 教材研究編 昭和54・5 明治図書出版(飛田多喜雄・藤原宏編) P六一～七六「表現教材の本質と研究」

10 国語表現論叢 昭和54・5 明治図書出版(押見虎三教授御退官記念事業会編) P七九～八四「言語の学習」と関連学習と一新しい国語教育のために」

- 11 教育学講座8 国語教育の理論と構造 昭和54・11 学習
研究社(倉沢栄吉・田近洵一・湊吉正編) P 九六〜一〇三
「古典教育論」
- 12 講座中学校国語科教育の理論と実践 第一巻 昭和54・11
有精堂(増淵恒吉・小海永二・田近洵一編) P 七七〜九
○「教材論」教材の発掘・編成と教科書のあり方」
- 13 講座国語科教育の探究3 理解指導の整理と展望 昭和
56・2 明治図書出版(全国大学国語教育学会編) P 三〇
〜五二「理解力の指導内容論」読む力」
- 14 国語科重要用語300の基礎知識 昭和56・8 明治図書
出版(野地潤家編)「経験主義」「能力主義」「人間形成」
「表現」「理解」「言語事項」「学習指導要領」「国語の特
質」「国語の尊重・愛護」「言語感覚・語感」
- 15 読書案内 昭和57・5 大修館(日本文学協会編) P 四
九〜五三「かわいそうなぞう」他に「しょうぼうじどうしゃ
じぶた」「ピューンの花」「小説の書き方―子の創作ノ―
ト」「山へ行く牛」「冒険者たち―ガンバと十五人の仲
聞―」
- 16 国語教材研究講座 高等学校現代文 下巻 評論・論説・
随筆 昭和58・9 有精堂(増淵恒吉・小海永二・大河原忠
蔵編) P 二二〜二八「夏目漱石「私の個人主義」」「現代日
本の開花」
- 17 国語教育の課題と創造 昭和59・2 有精堂(増淵恒吉
編) P 二二四〜二三二「現実認識力を育てる」
- 18 最新中学校国語科指導法講座 昭和59・4 明治図書出版
(飛田多喜雄・小林一仁編) P 一九四〜二〇二「国語科教
育と関連指導」
- 19 講座現代の文学教育 第1巻 昭和59・5 新光閣(日本
文学協会国語教育部会編) P 八七〜九九「どろんこハ
リー」
- 20 国語教育指導用語辞典 昭和59・10 教育出版(田近洵
一・井上尚美編) P 八二〜八三「伝記」、P 二四〇〜二四
一「基礎・基本」
- 21 国語教育研究3 読むことの教育と実践の課題 昭和60・
2 明治図書出版(全国大学国語教育学会編) P 八〇〜九
五「学習者の実態をふまえた読むことの指導」
- 22 日本文学講座12 文学教育 昭和63・3 大修館(日本文
学協会編) P 二二八〜二四四「文学教育の方法―自立した
読み手を育てる―」
- 23 高等学校学習指導要領解説 国語編 平成元・12 教育出
版(文部省) P 二二七〜一三四「第3章 各科目にわたる
指導計画の作成と内容の取扱い」
- 24 高等学校新学習指導要領解説 国語の内容と指導のポイント
ト 平成2・4 学事出版(市原菊雄・北川茂治編) P 二
二二〜二三四「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い」
- 25 改訂高等学校学習指導要領の展開 国語科編 平成2・6
明治図書出版(北川茂治・市原菊雄編) P 二二一〜二三〇
「古典I・古典II」

- 26 授業のための全発問 文学教材第8巻 小学3年 平成
2・7 明治図書出版(澁谷孝・市毛勝雄編) P七〇―
二三「花さき山」

IV 学術論文A 雑誌等論文

(国文学関係)

- 1 西鶴と民話覚え書―「心を畳込古筆屏風」と「小判は寐姿の夢」に関して― 昭和34・8 日本文学80(日本文学協会) P三五―四七
- 2 西鶴の説話的形象における人間認識―「好色五人女」の民話原型をめぐって― 昭和35・5 国文学攷23(広島大学国語国文学会) P三五六―三六五
- 3 西鶴の会話文の変遷と作品の性格 昭和36・12 都大論究1(東京都立大学国語国文学会) P一―一三
- 4 西鶴の失踪モチーフ三作品について 昭和37・5 国文学攷28(広島大学国語国文学会) P二四九―二五八
- 5 近世前期文学の風土と環境―名所記物から西鶴へ― 昭和37・12 国文学第7巻15号(学燈社) P一七一―一七七
- 6 西鶴文学の反語的性格 昭和38・6 日本文学121(日本文学協会) 「II著書B 共著単行本」の「日本文学研究資料叢書・西鶴」に収録
- 7 西鶴から太宰へ 昭和39・5 橋本佳先生還暦記念文集(東京都立大学国文科) P一九―二二
- 8 「苧簀桑門筑紫轢」の構造をめぐって 昭和39・12 文学139(日本文学協会) P五二―五九
- 9 近松が描いた世界―階級― 昭和40・3 解釈と鑑賞(至文堂) P五六―五九
- 10 仮名草子の無頼者たち―竹斎・楽阿弥・浮世房― 昭和41・12 立正女子短期大学研究紀要10(立正女子短期大学) P二〇―三七
- 11 近松浄瑠璃人物系譜の研究―世話物の女性像―(共著) 昭和42・2 文芸論叢3(立正女子短期大学文芸科) P八三―九四
- 12 西鶴文体の一原型―「北条五代記」と「日本永代蔵」 昭和42・6 国文学攷43(広島大学国語国文学会) 「II著書B 共著単行本」の「日本文学研究資料叢書・西鶴」に収録
- 13 「諸道聴耳世間猿」の特色 昭和42・9 国語国文学試論13(武蔵野・甲南文学会) P二一―三三
- 14 西鶴作品の章構成―永代蔵・胸算用・織留― 昭和42・12 立正女子短期大学研究紀要11(立正女子短期大学) P一七―三七
- 15 西鶴作品における数字記述(共著) 昭和43・2 文芸論叢4(立正女子短期大学文芸科) P一〇八―一一五
- 16 「本朝二十不孝」における悪の造型 昭和45・3 新潟大学教育学部紀要11(新潟大学教育学部) P七七―八五
- 17 「懐硯」の作品構造―感染の契機― 昭和45・3 国文学攷52(広島大学国語国文学会) P五一―六〇

- 18 「男色大鑑」における感染の契機 昭和45・6 近世文芸稿16 (広島近世文芸研究会) P二九〜三六
- 19 「武道伝来記」と「武家義理物語」 昭和45・12 国文学 (学燈社) P七三〜八〇
- 20 「武家義理物語」の章構造 昭和46・3 国文学攷55 (広島大学国語国文学会) P一〜九
- 21 「好色一代女」構造上の諸問題 昭和47・3 新潟大学教育学部紀要13 (新潟大学教育学部) P九八〜一〇七
- 22 西鶴作品の土地ごとの特性について 昭和48・3 新潟大学教育学部紀要14 (新潟大学教育学部) P七一〜八〇
- 23 西鶴小説における「性」の位相 昭和48・3 解釈と鑑賞 (至文堂) P五二〜五八
- 24 西鶴作品の「土地的特性」をどう見るか 昭和48・7 日本文学241 (日本文学協会) P九二〜九七
- 25 西鶴「武家義理物語」の世界―近世文学に描かれた武士像― 昭和50・1 解釈と鑑賞 (至文堂) P一〇二〜一〇四
- 26 西鶴「懐硯」における五つの類型 昭和50・3 新潟大学教育学部紀要16 (新潟大学教育学部) P六八〜七九
- 27 西鶴「懐硯」の「道行型」と謡曲 昭和50・3 新大國語 2 (新潟大学教育学部国語国文学会)
- 28 「諸国はなし」分類の試み 昭和52・1 近世文芸稿22 (広島近世文芸研究会) P七四〜八三
- 29 錯綜する運命の記録「武道伝来記」 昭和54・6 国文学

V 学術論文B 雑誌等論文

- 第24巻6号 (学燈社) P五四〜五九
- 30 井原西鶴の教育観 昭和57・3 広島大学教育学部紀要第2部30号 (広島大学教育学部) P一一〜一九
- 31 西鶴作品の章分類と成立事情 (研究ノート) 昭和58・3 都大論究20 (東京都立大学国語国文学会) P三六〜三七
- 32 近世前期文学の中の「言葉」の教育、「言語文化」の素養 昭和60・3 広島大学教育学部紀要第2部34号 (広島大学教育学部) P三九〜四九
- 33 作品・作家にみる色彩語 西鶴 昭和63・1 日本語学第7巻第1号 (明治書院) P六一〜六五
- 34 「天神記」の系譜―「天満宮菜種御供」への継承― 平成元・3 広島大学教育学部紀要第2部38号 (広島大学教育学部)
- (国語教育関係)
- 1 詩の教育 昭和47・7 文学教育8 (明治図書出版・西郷竹彦編集) P三〇〜四五
- 2 文学言語の可能性を学ばせる (シンポジウム記録) (共著) 昭和52・3 日本文学285 (日本文学協会) P一〜二二
- 「ことばの教育と文学の教育」昭和51・10・10 日本文学協会第31回大会 同志社大学

- 3 国語科内容学に関する私見―国文学研究の窓から― 昭和62・10 教科教育学会紀要4 (広島大学教科教育学会) P 二〇二
- 4 現実を解釈する力を(シンポジウム記録) (共著) 昭和63・2 日本文学416 (日本文学協会) P 一〇八「文学教育における虚構とは何か」昭和62・10・31 日本文学協会第42回大会 広島大学
- 5 国語教育のための「映像」の基礎論(シンポジウム記録) (共著) 昭和63・3 国語科教育第三十五集(全国大学国語教育学会) P 一〇一「国語科教育における映像の位置―読みの指導の場合」昭和61・7・30 全国大学国語教育学会第72回学会 東京茗溪会館

VI 提言的論考

(国語教育関係)

- 1 文学教材研究 井伏鱒二「屋根の上のサワン」 昭和40・1 日本文学140 (日本文学協会) P 二四〇三二
- 2 「現代国語」における短歌の取り扱い―授業法についての試み― 昭和40・6 東京都立高等学校国語教育研究会 P 一六〇二二
- 3 佐多稲子「水」―研究授業を通しての教材研究― 昭和42・7 日本文学169 (日本文学協会) P 三九〇五一
- 4 国語教育の原点 昭和45・3 新潟国語教育研究1 (新潟国語教育学会) P 三〇一〇
- 5 短作文指導についての私見 昭和46・3 新潟国語教育研究2 (新潟国語教育学会) P 六一〇六六
- 6 西鶴「忍び扇の長歌」をどう読むか 昭和47・11 国語通信151 (筑摩書房) P 二七〇三一
- 7 読みにおける論理と創造 昭和48・10 三条市須頃小学校 P 一〇二〇
- 8 「原点的発想」に立って調べ読みを(説明的文章教材の読書指導をどう考えるか) 昭和49・2 教育学科学国語教育187 (明治図書出版) P 三五〇四〇
- 9 作文以前の作文指導を(作文指導の研究課題) 昭和50・2 教育学科学国語教育200 (明治図書出版) P 四九〇五二
- 10 言葉で考え、言葉を考える力(言語技能と思考力―国語科の学力を考える―) 昭和51・4 教育学科学国語教育217 (明治図書出版) P 六六〇七一
- 11 文学教育についての私見 昭和51・8 日本文学278 (日本文学協会) P 一〇六
- 12 言語感覚と表現力の練成を(新領域「表現」「理解」と「言語事項」をどう受けとめるか) 昭和51・12 教育学科学国語教育227 (明治図書出版) P 六五〇六八
- 13 「表現」に目ざめ言語感覚を磨く 昭和52・4 月刊国語教育研究59 (日本国語教育学会) P 二四〇二八
- 14 表現することの教育と表現を読む教育と(新領域「表現」「理解」の実践研究の課題) 昭和52・8 教育学科学国語教

- 育 236 (明治図書出版) P 一〇六〜一一五
- 15 技能主義を超えて主体的な表現者を育てる―指導事項の階層化をめぐる―(中学校全学年・二領域、一事項の実践的検討―「表現」領域を中心に) 昭和52・8 教育科学国語教育 237 (明治図書出版) P 一七九〜一八二
- 16 気楽に文章を「作らせる」機会を多く(作文力の「遅れがちの子」の指導方法のくふう) 昭和52・11 教育科学国語教育 240 (明治図書出版) P 二〇〇〜二〇四
- 17 「文学的な言語の力」を伸ばす 昭和53・4〜5 実践国語研究 7 (明治図書出版) P 九〜一二
- 18 関連―相互媒介の原理(表現と理解との指導をどう関連させるか) 昭和53・11 国語科教育学研究 5 (明治図書出版) P 五五〜六四
- 19 「書く」活動を軸にした学習指導の方法(文章表現力の向上を目指す授業は、どうあるべきか) 昭和54・2 教育科学国語教育 257 (明治図書出版) P 一七〜二二
- 20 作文の特設の指導がなぜ必要か 昭和54・3 教育科学国語教育 259 (明治図書出版) P 五〜九
- 21 作中人物の「心内語」の創出と「状況」―「山へ行く牛」の授業を中心に― 昭和54・6 日文協国語教育 9 (日本文協会国語教育部会) P 一〜七
- 22 新国語科の争点を整理する(新指導要領の争点を整理する―これからの現場研究の課題を明らかにする) 昭和54・6 現代教育科学 268 (明治図書出版) P 四二〜四九
- 23 国語科教育の中の作文教育(作文教育の総括と展望) 昭和54・8 文芸教育 27 (明治図書出版・西郷竹彦編集) P 二六〜三三
- 24 作文教育の今日的課題と指導の方向(教科教育検討の視点) 昭和54・10 学習指導研究 2-7 (教育開発研究所) P 二八〜三二
- 25 「学習者」における能力関連の必然性の根拠(リレー研究「関連的指導法の開拓」) 昭和55・2 教育科学国語教育 271 (明治図書出版) P 一〇四〜一一〇
- 26 関連学習指導における言語習得の自覚化(「関連指導」の実践研究を深めるために―指導の効果をあげるための重点課題は何か―) 昭和55・5 教育科学国語教育 247 (明治図書出版) P 五〜八
- 27 到達度評価の充実と整理を(国語科の観点・評定・所見の検討) 昭和55・5 現代教育科学 281 (明治図書出版) P 七二〜七六
- 28 教材・教師・児童の多様な関係を保障できるか―教材観と指導法への固定化へのおそれ―(系統指導で何が問題になるか) 昭和55・8 文芸教育 30 (明治図書出版・西郷竹彦編集) P 六〇〜六六
- 29 国語科の「関心・態度」評価の問題点 昭和55・8 現代教育科学 285 (明治図書出版) P 七三〜七七
- 30 ことばの反省、表現の意識化など―「趣旨」と「具体化」のずれを超えて―(観点「国語に対する関心・態度」評価の

- 基準をどう設定するか) 昭和55・11 教育科学国語教育282
(明治図書出版) P二二二〜二二七
- 31 読んで書き、全員が発言する「小説」の学習—小川国夫
「物と心」の研究授業—昭和55・11 国語科教育研究26
(広島大学教育学部光葉会) P八七〜九八
- 32 学びがいのある国語科授業の条件—全員発言と野球型発想
と—昭和56・2 授業研究219(明治図書出版)
- 33 「授業モデル」形成の条件—貫性と文節性をめぐって—
(よい授業のモデルとその活用 表現指導を中心に) 昭和
56・2 教育科学国語教育285(明治図書出版) P三八〜四
三
- 34 目的意識に立つ「調べ読み」がなぜ必要か 昭和56・6
教育科学国語教育289(明治図書出版) P五〜一〇
- 35 読解指導と読書指導 昭和56・6 国語科教育研究7(明
治図書出版) P八四〜九七
- 36 国語科教育の目標からみた教科書の捉え方 昭和56・8
学習指導研修4—5(教育開発研究所) P二五〜二八
- 37 感動をどう形成し高めるか—国語科教材の場合— 昭和
56・9 学校教育770(広島大学附属小学校教育研究会) P
二二〜二七
- 38 国語科単元学習はどう変わってきたか 昭和56・12 現代
教育科学301(明治図書出版) P四二〜四七
- 39 シンタグマティックな観点の導入(シンポジウム・西郷文
芸学の歴史的展開の検討) 昭和56・12 文芸教育34(明治図
書出版・西郷竹彦編集) P九四〜九八
- 40 つまずきの顕在化と「二対一」交流(つまずき回復指導を
どう取り入れるか) 昭和57・3 教育科学国語教育299(明
治図書出版) P一七〜二二
- 41 人間疎外状況からの回復—いくつかの観点(教育の危機と
国語教師) 昭和57・5 月刊国語教育研究120(日本国語教
育学会) P二〜六
- 42 こんな国語授業展開の力量をつけよう(若い教師へ—私が
すすめる勉強法) 昭和57・6 授業研究236(明治図書出
版) P七一〜七八
- 43 虚構論—西郷文芸学の基本原理として(西郷文芸学の検
討) 昭和58・1 文芸教育37(明治図書出版・西郷竹彦編
集) P一一〜一二七
- 44 語り尽くせないものの発見(文学教育がひらくもの・国語
教育の部) 昭和58・2 日本文学356(日本文学協会) P
二六〜三〇
- 45 学習の基点—反応の整理と喚び起こし—(提言・学習反応
をとらえる工夫をどうすべきか) 昭和58・3 教育科学国
語教育314(明治図書出版) P一一〜一六
- 46 国語科の発問—問題点と改善への課題(発問研究の問題点
と改善への課題) 昭和58・9 授業研究255(明治図書出
版) P四九〜五五
- 47 説明文学習指導の二、三の観点 昭和58・11 月刊国語教
育研究138(日本国語教育学会) P二〜六

- 48 文学の読みにおける「大事なことば」とは—文脈の中での発見、さまざまのケース— 昭和59・3 教育科学国語教育329 (明治図書出版) P 五〇—一
- 49 三つの原理から考える(作文の年間指導計画立案上の留意点) 昭和59・3 教育科学国語教育330 (明治図書出版) P 一八〇—三
- 50 子どもを学習の主役にする授業の構成(楽しくわかる授業とは—その基本条件を考える) 昭和59・5 国語教育別冊1 (明治図書出版) P 五〇—九
- 51 中心場面の読みの指導に関する五つの観点—その系統的発展— 昭和59・6〇—7 実践国語教育研究46 (明治図書出版) P 六〇—一
- 52 子どもが集中する国語科の導入—導入の三つの型をめぐって— 昭和59・7 授業研究268 (明治図書出版) P 一四〇—二〇
- 53 個々の反応・発言の重視と組織化—自ら学び取らせるための働きかけ—(教育への提言) 昭和59・7 学校教育804 (広島大学附属小学校教育研究会) P 六〇—一
- 54 古典の教材化—組合わせ法をめぐって—「おくのほそ道」を中心として— 昭和60・6 国語教育研究29 (広島大学教育学部光葉会) P 八三〇—九二
- 55 「考える」ことを「教える」(どこで教え、どこで考えさせるか—学習者主体の授業展開とは) 昭和60・7 教育学国語教育350 (明治図書出版) P 五〇—九
- 56 子どもの反応を生かし、構成する(子どもの願いに応える学習課題とは) 昭和60・7 国語教育別冊5 (明治図書出版) P 五〇—九
- 57 論説文教材の学習に魅力をもたせよう(論説教材の魅力とその指導) 昭和60・7 月刊国語教育研究5—5 (東京法令出版) P 四四〇—四九
- 58 高校国語科における「奥の細道」 昭和60・8 近世文芸稿28 (広島近世文芸研究会) P 一四〇—二四
- 59 古典学習の作業化1 「伊勢物語」第九段「東下り」(古典を主体的に楽しく学習させるために) 昭和60・12 月刊実践国語教育情報3—12 (教育出版センター) P 一〇二—一〇八
- 60 古典学習の作業化2 「枕の草子」第一段「春はあけぼの」(古典を主体的に楽しく学習させるために) 昭和61・1 月刊実践国語教育情報4—1 (教育出版センター) P 一三二—一三五
- 61 古典学習の作業化3 「大鏡」「肝試し」(古典を主体的に楽しく学習させるために) 昭和61・2 月刊実践国語教育情報4—2 (教育出版センター) P 九〇—九七
- 62 子どもを学習の主役にする国語の学習指導(教育への提言) 昭和61・2 学校教育823 (広島大学附属小学校教育研究会) P 二二〇—二七
- 63 古典学習の作業化4 「おくのほそ道」「月日は百代の過客にして」(古典を主体的に楽しく学習させるために) 昭和

- 和61・3 月刊実践国語教育情報4―3 (教育出版センター) P一〇〇〜一〇四
- 64 古典学習の作業化5 「方丈記」「行く川の流れ」(古典を主体的に楽しく学習させるために) 昭和61・4 月刊実践国語教育情報4―4 (教育出版センター) P七〇〜七三
- 65 「問題」予備学習の整理と展開(魅力ある学習課題をどうつくるか) 昭和61・4〜5 実践国語教育研究60(明治図書出版) P六〜一一
- 66 作業学習のすすめ1 「大造じいさんとがん」の作業学習―学習者の一人ひとりが教材文に取り組むために 昭和61・5 月刊実践国語教育情報4―5 P六〇〜六三
- 67 文学作品の読みにおける虚構の認識力 昭和61・7 日本文学397(日本文学協会) P一一〜二〇
- 68 作業学習のすすめ2 「合図としるし」の作業学習―学習者の一人ひとりが教材文に取り組むために 昭和61・7 月刊実践国語教育情報4―7 P七一〜七五
- 69 作業学習のすすめ3 「はまひるがのおの小さな海」の作業学習―学習者の一人ひとりが教材文に取り組むために 昭和61・8 月刊実践国語教育情報4―8 P六〇〜六六
- 70 作業学習のすすめ4 「白いぼうし」の作業学習―学習者の一人ひとりが教材文に取り組むために 昭和61・9 月刊実践国語教育情報4―9 P五〇〜五五
- 71 生徒が直接原文に取り組む作業学習を(古典の授業改善の視点) 昭和61・10 国語教室29(大修館書店) P七〜九
- 72 音読・黙読の問題点と目的(提言 音読と黙読の指導―フランスのとれた工夫を) 昭和61・10 教育科学国語教育369(明治図書出版) P二二〜二六
- 73 毎日のメモ作文から書くことの誘い出しへ(自己表現力を育てる授業づくりの工夫) 昭和61・12 学校教育33(広島大学附属小学校教育研究会) P六〜一一
- 74 学習活動を深化させる発問(「発問技術」に上達論はあるのか―これまでの研究をふりかえって) 昭和62・8 現代教育科学369(明治図書出版) P一一〜一三
- 75 子どもの内面の充実のために(「国語科学習指導要領」のここを改善すべきだ!) 昭和62・10 教育科学国語教育384(明治図書出版) P一五〜一七
- 76 現実を解釈する力を(シンポジウム・文学教育における虚構とは何か) 昭和63・2 日本文学416(日本文学協会) P一〜八
- 77 授業のアイデア1 子どもを学習の主役にする全員発言の授業 昭和63・4 月刊国語教育研究191(日本国語教育学会) P三四〜三七
- 78 授業のアイデア2 子どもを学習の主役にする全員発言の授業(その二) 昭和63・5 月刊国語教育研究192(日本国語教育学会) P三四〜三七
- 79 授業のアイデア3 板書の工夫について 昭和63・6 月刊国語教育研究193(日本国語教育学会) P四〇〜四三
- 80 授業のアイデア4 板書、教師の発言について 昭和63・

- 7 月刊国語教育研究194 (日本国語教育学会) P 四〇〇〇四
三
- 81 授業のアイデア5 教材文の構造整理—教材研究の基本
昭和63・8 月刊国語教育研究195 (日本国語教育学会) P
四〇〇〇四三
- 82 授業のアイデア6 作業学習のヒント 昭和63・9 月刊
国語教育研究196 (日本国語教育学会) P 四〇〇〇四三
- 83 授業のアイデア7 一日一枚材料貯金—作文の生活化、生
活の作文文化— 昭和63・10 月刊国語教育研究197 (日本国語
教育学会) P 四一〇〇四四
- 84 授業のアイデア8 書き出しの例は教科書に 昭和63・12
月刊国語教育研究199 (日本国語教育学会) P 四〇〇〇四三
- 85 「あらすじ」を多層的に考える(「あらすじ」の捉えさせ
方・書かせ方) 昭和63・12〇〇平成1・1 実践国語教育研
究85 (明治図書出版) P 六〇〇〇一一
- 86 明治以後の短歌史概略 昭和63 高等学校教育ノート・国
語「近・現代 詩・短歌・俳句史概観」(学校図書) P 七
〇〇〇一一
- 87 授業のアイデア9 個人文集・授業記録(当番) 平成
1・1 月刊国語教育研究200 (日本国語教育学会) P 四八
〇〇五二
- 88 授業のアイデア10 漢字貯金箱と作文語彙指導 平成1・
2 月刊国語教育研究201 (日本国語教育学会) P 四〇〇〇四
三
- 89 授業のアイデア11 話し言葉の学習と教師の言葉遣いと
平成1・3 月刊国語教育研究202 (日本国語教育学会) P
五四〇〇五七
- 90 新「学習指導要領」で古典指導はどう変わるか 平成1・
5 国語教室37 (大修館書店) P 一七〇〇二〇
- 91 「現代語」における「書く」 平成1・5 日本語学
1983・5 (明治書院) P 四三〇〇四九
- 92 古典教育の重視と新生面(特集・新しい国語教育の展望)
平成1・5 月刊国語教育(東京法令出版) P 六〇〇〇六五
- 93 小学校における国語教材選定の観点(新教育課程への移行
と実践200のポイント) 平成1・5 教職研修201 (教育開発研
究所) P 四八〇〇四九
- 94 小学校における国語教材選定の観点 平成1・5 教職研
修201 (教育開発研究所) P 四八〇〇四九
- 95 教師は子供の自動学習の「仕掛人」に 平成1・9 国語
教育随想(新潟国語教育学会20周年記念誌) P 一三〇〇一七
- 96 新学習指導要領「古典I・II」に対する「古典講読」平
成2・1 日本語学911 (明治書院) P 四〇〇〇一〇
- 97 開拓者としての大河原理論 平成2・3 国文・研究と教
育13 (奈良教育大学) P 二七〇〇三二
- 98 国語科「言語事項」の取り扱い方 平成2・8 教職研修
総合特集 新教育課程読本12 P 八三〇〇八九

Ⅶ 国語教育関係の講演・発表・シンポジウム・授業等の記録

- 1 読解能力の評価―「主題」論にふれて―(講演) 昭和47・3 新潟国語教育研究3(新潟国語教育学会) P六九〇七八 昭和46・8 新潟県村上若船大会
- 2 授業体系における読書指導の構想―原点的発想に立つ(講演)―一八P 昭和48・3 新潟市鏡淵小学校
- 3 原点的発想に立つ読書指導を(発表) 昭和48・12 日本文学協同教育1(日本文学協会国語教育部会) P五〇八 昭和47・8・23 箱根きのくに屋
- 4 国語教育への期待(講演) 昭和48・12 新潟国語教育研究4(新潟国語教育学会) P一〇二 昭和48・8・17 弥彦観音寺温泉
- 5 想の活用と作業化(講演) 昭和50・10 栃尾市上塩小学校 P五〇〇五六 昭和50・5・27 栃尾市上塩小学校
- 6 古典教育の視点―古典のおもしろさを発見させるために(講演) 昭和51・3 国語大分20(大分県高等学校教育研究会国語部会) P一八〇四二 昭和50・11・12 大分県中津北高等学校
- 7 模範授業の記録(「源氏物語」「若紫」)(授業) 昭和51・3 国語大分20(大分県高等学校教育研究会国語部会) P四三〇 昭和50・11・12 大分県中津北高等学校2年組
- 8 これからの国語教育(シンポジウム) 昭和52・9 月刊国語教育研究64(日本国語教育学会) P二二九 昭和52・8・17 東京都児童会館
- 9 文芸研の理論と方法(シンポジウム) 昭和53・1 季刊文芸教育22(明治図書出版・西郷竹彦編集) P二四〇六八 昭和52・8・3 第12回全国集会 広島市矢野西小学校
- 10 古典に興味をもたせる指導のあり方―近世文学を中心に―(講演) 昭和53・3 国語研究24(新潟県高等学校教育研究会国語部会) P二一七 昭和52・10・7 新潟県相川高等学校
- 11 日本の古典における愛の文学―万葉集から西鶴まで―(講演) 昭和54・3 第10回新潟県私立中学高等学校教育研究会研究集録(新潟県私学振興会、私学教育研修資料1) P一三〇五 昭和53・7・21 弥彦グランドホテル
- 12 現代文の力をつける(講演) 昭和54・3 第10回新潟県私立中学高等学校教育研究会研究集録(新潟県私学振興会、私学教育研修資料1) P五二〇 昭和53・7・22 弥彦グランドホテル
- 13 言語事項の習得と活用(講演) 昭和57・1 国語研究90(愛媛国語研究会) P一〇二九 昭和56・7・31 第20回夏季研究会 愛媛県松山女学院
- 14 古典に興味を持たせる学習指導(授業・講演) 昭和58・3 宮崎県高等学校国語部会秋季総会(資料)(宮崎県高等学校国語部会) 二四P 昭和57・10・19 宮崎県妻高等学校

- 15 国語学的観点から関連・系統指導を検討する(対談) 昭
和58・8 文芸教育40(明治図書出版・西郷竹彦編集) P
- 八八〇一五四 広島大学教育学部
- 16 古典に親しませる分かりやすい全員参加の授業を目ざし
て―城東地区国語研究会報告(『平家物語』『木曾最期』)
(授業・講演) 昭和58・10 国語研究紀要17(熊本県高等
学校教育研究会国語部会、小国高等学校国語科) P八八〇九
三 昭57・11・17、熊本県小国高等学校1年4組
- 17 国語単元学習の検討(シンポジウム) 昭和59・3 国語
科研究31(全国大学国語教育学会) P一〇二一 昭和58・
10・6、第65回学会 北海道教育大学旭川分校
- 18 公開授業の記録(小川国夫「物と心」)(授業) 昭和
59・10 国語研究紀要18(熊本県高等学校教育研究会国語部
会、第一高等学校) P二〇一九 昭和58・10・4 熊本県第
一高等学校1年7組
- 19 表現する意欲を高める読解指導(講演) 昭和59・10 国
語研究紀要18(熊本県高等学校研究会国語部会、第一高等学
校) P二〇〇六二 昭和58・10・4 熊本県第一高等学校
- 20 表現活動の主役を育てる(講演) 昭和61・1 国語研究
99(愛媛国語研究会) P一二〇一七 昭和59・7・31、
第22回夏季研修会。新居浜市市民福祉会館
- 21 子どもを学習の主役にする文学教材の学習指導(講演) 昭
和60・11 言の葉 そのⅢ(岡山県小学校教育研究会国語部
会) 第25回夏季特別国語講座報告書 P二〇三三 昭和60・
- 8・17 岡山市中央公民館
- 22 生徒を学習の主役にする国語指導法(講演) 昭和61・2
会報第24号 昭和60年度(岐阜県高等学校国語教育研究会)
P六〇三五 昭和60・8・20 岐阜県第一女子高等学校
- 23 読んで書き全員が発言する「小説」の学習―小川国夫「物
と心」の研究授業―(講演) 昭和61・12 昭和61年度第21
回中国地区私学教育研修会、第17回広島県分科会研究集録
(広島県私立中学高等学校協会他) 七〇〇七四P 昭和61・
8・22 広島学院中・高等学校
- 24 作文力を育てる指導法の開発(授業) 昭和61・6 広島
県安芸津町大芝小学校 二四P 昭和61・6・4 大芝小学
校4年6組
- 25 文学作品の読解指導(授業・講演) 昭和62・2 昭和61
年度研究紀要(広島市中野東小学校) P五六〇六一 昭和
61・6・10 広島市中野東小学校6年
- 26 文学教材で何を教えるか(シンポジウム) 昭和62・3
国語教育実践者会議集録「生きる力に培う国語教室の創造」
第4回全国大会(国語教育実践者会議) P七〇〇一〇二 昭
和61・12・26 名古屋市中小企業センターホール
- 27 学習指導の内容と方法(講演) 昭和63・3 一九八七年
度研究集録(竹原市大乘小学校)、昭和62・9・25 大竹市
大乘小学校
- 28 生徒一人ひとりを学習の主役にする(講演・授業) 昭和
63・4 国語大分32(大分県高等学校教育研究会国語部会)

P 四〇二四 昭和62・11・18 大分県日田高等学校2年6組

VIII 国語教育に関するエッセイ・評論・寸見

- 1 「評価」断想―本の櫓を 昭和44・2 授業の研究22
(新潟大学教育学部附属小学校) P 九〇二二
- 2 「聞き合い」のモラルと「公話」の姿勢を 昭和45・9
授業の研究28 (新潟大学教育学部附属小学校) P 九〇二二
- 3 課題を確かめ、着想を生かし相互媒介によって(考えを深めるには) 昭和48・2 授業の研究38 (新潟大学教育学部附属小学校) P 三〇五
- 4 「古典・昔話」取り扱いの視点 昭和48・3 学図教科研究小学校国語28 (学校図書) P 一〇二
- 5 古典「仁王門の綱」・「秘曲」 昭和48・5 学図教科研究小学校国語30 (学校図書) P 三〇四
- 6 理解の形成を軸に(実践分析 音読・朗読の指導をめぐって) (共著) 昭和48・7 教育科学国語教育178 (明治図書出版) P 四八〇五二 (飛高・高橋・鈴木三氏の実践報告への意見)
- 7 「書く」ために「読む」 昭和48・10 三条市須頃小学校 P 七〇一三
- 8 古典の学習 昭和48・12 学図教科研究中学校国語22 (学校図書) P 一〇五
- 9 自己を離れる作文 昭和49・6 国語教室37 (青学会・青

木幹勇編集) P 四〇五

- 10 小説作品の学習―感動を深め、言語感覚を磨く― 昭和50・3 学図教科研究中学校国語33 (学校図書) P 一〇四
- 11 名詞から読む古典学習 昭和50・9 国語教室52 (青学会・青木幹勇編集) P 二〇三
- 12 問い(課題)の的確さということ―「夕づる」の授業を参観して― 昭和51・12 授業の研究53 (新潟大学教育学部附属小学校) P 三八〇四一 (同校大坂伝衛氏の授業を参観して)
- 13 推考とは直すことでなく悩むことである 昭和52・4 国語教室71 (青学会・青木幹勇編集) P 八〇九
- 14 古典を「おもしろく」読ませる 昭和52・9 学図教科研究中学校国語45 (学校図書) P 七〇二二
- 15 「山へ行く牛」授業の回想 昭和53・2 学図教科研究小学校国語62 (学校図書) P 六〇八
- 16 人物の心内語の創造―身になって読む― 昭和54・4 学図教科研究小・中1 (学校図書) P 一八〇二二
- 17 私の授業―全員感想(要点)一覧表について― 昭和54・4 授業研究194 (明治図書出版) P 一〇〇二一〇
- 18 検討 教材の「呼びかけ」を児童に(共著) 昭和54・4 授業研究195 (明治図書出版) P 五二〇五七 (水沢潔・佐藤範子・丸山喜美、三氏の実践報告への意見)
- 19 古典教材の指導について 昭和54・11 学図教科研究小学校国語17 (学校図書) P 一〇二

- 20 福崎紀章先生の「イメージマップ法による読解指導」の授業を拝見して 昭和56・11 学校教育772(広島大学附属小学校教育研究会) P 三八〜四一(同校福崎紀章氏の授業を参観しての意見)
- 21 新しい古典教育をひらく(共著) 昭和57・6 月刊国語教育2-3(東京法令出版) P 三四〜四九(紙上シンポジウム構成)
- 22 読み・書き指導の観点からの検討(「新学テ」の出題内容と設問のあり方) 昭和57・9 授業研究241(明治図書出版) P 四四〜四九
- 23 国語教育のあり方を正す基点(「国語の力」をこう読む・読ませている) 昭和57・12 教育学国語教育311(明治図書出版) P 五八〜六〇
- 24 教材解釈と教材間関係との問題(誌上シンポジウム、提案に対する意見) 昭和58・2 教育学国語教育313(明治図書出版) P 二二〜二八(西郷竹彦氏の提案に対する意見)
- 25 読み書きの意欲を高める絵巻物づくり(読みを深めるための書くことの指導) 昭和58・3 教育学国語教育315(明治図書出版) P 一六七〜一七〇(草津小学校杉田喜久恵氏の実践報告への意見)
- 26 子どもを生かす具体的方策を―賛成の立場からの補充的批判― 昭和58・4 教育学国語教育317(明治図書出版) P 五〇〜五五(氷上正氏の提案への意見)
- 27 巻頭言 昭和58・4 月刊国語教育研究131(日本国語教育学会) P 一
- 28 小説教材を楽しく読ませるために 昭和59・2 学図教科研究中学校国語60(学校図書) P 六〜九
- 29 「だれも知らない」(六下)の授業(一) 昭和59・6 学図教科研究小学校国語63(学校図書) P 四〜八
- 30 「だれも知らない」(六下)の授業(二) 昭和59・9 学図教科研究小学校国語65(学校図書) P 一〜五
- 31 国語科授業研究に欠けているもの―私の願い― 昭和59・9 現代教育学334(明治図書出版) P 三七〜四二
- 32 中学校二年の教材研究事例を読んで 昭和60・3 教育学国語教育345(明治図書出版) P 二九一〜二九七(新井泰春・野々山美智代・高橋俊三・藤木正義・麻生信子五氏の教材研究への意見)
- 33 魅力ある教材・学習指導(子どもにとって「魅力ある授業」とは) 昭和60・4 教育学国語教育346(明治図書出版) P 一〜二二
- 34 「児のあめくひたること」の指導過程―古典をおもしろく読ませるために― 昭和60・5 学図教科研究中学校国語72(学校図書) P 六〜九
- 35 先達の「集成」と中堅の活躍(全国展望) 昭和60・6 教育学国語教育349(明治図書出版) P 二八
- 36 問題提起 個別学習と合理的に組み合わせる共同学習 昭和61・2 月刊国語教育研究165(日本国語教育学会) P 二
- 37 法則化にかかわらず良否はある(国語教育研究者からの注

- 文・批判―教育技術法則化運動) 昭和61・4 現代教育科
学353 (明治図書出版) P四七〜四九
- 38 国語科の学力評価 どこが問題か 昭和61・6 教育科学
国語教育365 (明治図書出版) P一〇六〜一〇九
- 39 実習生の授業と助言をめぐって (授業を考える1) 昭和
62・9 国語教室196 (青学会・青木幹勇編集) P四〜五
- 40 子どものどのような反応も生かす (授業を考える2) 昭
和62・10 国語教室197 (青学会・青木幹勇編集) P二〜三
- 41 「教師の硬直化」を警戒しよう (授業を考える3) 昭和
62・11 国語教室198 (青学会・青木幹勇編集) P二〜
三
- 42 訓練としての授業 (授業を考える4) 昭和62・12 国語
教室199 (青学会・青木幹勇編集) P四〜五
- 43 「万葉」「古今」「新古今」の特色 昭和63・10 学図教
科研究中学校国語103 (学校図書) P二〜九
- 44 生活言語と言語文化伝統の強化 平成1・4 ハイスクー
ルニュース・高等学校学習指導要領改訂のポイント (学校図
書) P二
- 45 手作りの教育 (教育のアイデア①) 平成1・6 国語教
室217 (青学会・青木幹勇編集) P七〜八
- 46 「作る活動」と国語学習 (教育のアイデア②) 平成1・
7 国語教室218 (青学会・青木幹勇編集) P七〜八
- 47 映画監督と教師―山田洋次監督の講演から― (教育のアイ
デア③) 平成1・9 国語教室220 (青学会・青木幹勇編

集) P一〇〜一一

- 48 創り出す子供を育てる授業の創造 (教育のアイデア④)
平成1・10 国語教室221 (青学会・青木幹勇編集) P四〜
五

- 49 「間違い」を追い出さない教室 (教育のアイデア⑤) 平
成1・12 国語教室223 (青学会・青木幹勇編集) P二〜三
- 50 「話し言葉」を指導する前提 (教育のアイデア⑥) 平成
2・2 国語教室225 (青学会・青木幹勇編集) P四〜五
- 51 自動学習の流れを創り出す教室 (教育のアイデア⑦) 平
成2・3 国語教室226 (青学会・青木幹勇編集) P二〜三
- 52 「習うより慣れよ」 (教育のアイデア⑧) 平成2・4
国語教室227 (青学会・青木幹勇編集) P四〜五
- 53 「いつでも学校が悪い！」 (教育のアイデア⑩) 平成
2・6 国語教室229 (青学会・青木幹勇編集) P四〜五
- 54 「をばすて」と少女たち (教育のアイデア⑪) 平成2・
7 国語教室230 (青学会・青木幹勇編集) P四〜五
- IX 随想・エッセイ (国語・他)

- 1 充実した短さ (言語表現随想1) 昭和54・4 国語教室
95 (青学会・青木幹勇編集) P八〜九
- 2 「書く機会の多い」教師でありたい (言語表現随想2)

- 昭和54・5 国語教室96 (青玄会・青木幹勇編集) P 八〇九
- 3 材料から作文が出発する―付・私の校歌 (言語表現随想 3) 昭和54・6 国語教室97 (青玄会・青木幹勇編集) P 二〇三
- 4 「年間文集」と教室の掲示 (言語表現随想4) 昭和54・7 国語教室98 (青玄会・青木幹勇編集) P 六〇七
- 5 一本の櫓 (言語表現随想5) 昭和54・8 国語教室99 (青玄会・青木幹勇編集) P 八〇九
- 6 越後美人―文学散歩の中から― 昭和54・12 雪月花7 (高橋和夫編集) P 四六〇四九
- 7 授業記録当番 (言語表現随想6) 昭和55・1 国語教室104 (青玄会・青木幹勇編集) P 六〇七
- 8 推考・批評の痕跡を生かす (言語表現随想7) 昭和55・2 国語教室105 (青玄会・青木幹勇編集) P 八〇九
- 9 論理的な考察力を育てる「過程」に (一言感想 なぜ社会科の評価テストばかりがヤリ玉に?) 昭和55・2 教育学科 学社会科教育199 (明治図書出版) P 九
- 10 野地潤家先生の「朗読時間」 (言語表現随想8) 昭和55・3 国語教室106 (青玄会・青木幹勇編集) P 九〇一〇
- 11 材料貯金の活用―私の作文授業― (言語表現随想9) 国語教室107 (青玄会・青木幹勇編集) P 八〇九
- 12 感想カードのグルーピングを土台に―私の授業― (言語表現随想10) 昭和55・7 国語教室110 (青玄会・青木幹勇編集) P 二〇三
- 13 誤解や誤表現は生活や観念の露呈 (言語表現随想11) 昭和55・11 国語教室114 (青玄会・青木幹勇編集) P 八〇九
- 14 明瞭な発言をしないと損をする (言語表現随想12) 昭和55・12 国語教室115 (青玄会・青木幹勇編集) P 七〇八
- 15 手作りの日本語教育 (言語表現随想13) 昭和56・3 国語教室118 (青玄会・青木幹勇編集) P 六〇七
- 16 仲間用語 (言語表現随想14) 昭和56・4 国語教室119 (青玄会・青木幹勇編集) P 八〇九
- 17 模倣・蓄積・創造 (言語表現随想15) 昭和56・6 国語教室121 (青玄会・青木幹勇編集) P 二〇三
- 18 電話は盗聴器になる (言語表現随想16) 昭和56・10 国語教室125 (青玄会・青木幹勇編集) P 八〇九
- 19 野地潤家先生の言語表現個体史の「記録」 (言語表現随想17) 昭和56・12 国語教室127 (青玄会・青木幹勇編集) P 二〇三
- 20 「幼い友だち」の手紙 (言語表現随想18) 昭和57・3 国語教室130 (青玄会・青木幹勇編集) P 一三〇一四
- 21 合戦の実態―「本音」の表現 (言語表現随想19) 昭和57・6 国語教室133 (青玄会・青木幹勇編集) P 二〇三
- 22 国境の長いトンネルを抜けると雪国であります (言語表現随想20) 昭和57・10 国語教室137 (青玄会・青木幹勇編集) P 八〇九
- 23 よみがえる草戸千軒 (文化随想第二回) 昭和57・10 新集) P 八〇九

- 24 鴻巣教育月報³⁸⁵ (新鴻巣教育委員会) P 四二〜四四
 24 文明批評―「ガリウア」と「パパラギ」(文化随想第二回) 昭和57・11 新鴻巣教育月報³⁸⁶ (新鴻巣教育委員会) P 五四〜五八
 25 江戸時代の「幼年教育」観(文化随想第三回) 昭和57・12 新鴻巣教育月報³⁸⁷ (新鴻巣教育委員会) P 五〇〜五二
 26 いくさのむなしさ―「翁草」の合戦談から(文化随想第四回) 昭和58・1 新鴻巣教育月報³⁸⁸ (新鴻巣教育委員会) P 六〇〜六一
 27 司会が立場を忘れたら(言語表現随想21) 昭和58・1 国語教室¹⁴⁰ (青玄会・青木幹勇編集) P 八〜一〇
 28 おおらかさを失った「笑い」のブーム(文化随想第五回) 昭和58・2 新鴻巣教育月報³⁸⁹ (新鴻巣教育委員会) P 三六〜三八
 29 習・稽古・適時・自戒(文化随想最終第六回) 昭和58・3 新鴻巣教育月報³⁹⁰ (新鴻巣教育委員会) P 六六〜六八
 30 「習」―羽と手本(言語表現随想22) 昭和58・3 国語教室¹⁴² (青玄会・青木幹勇編集) P 六〜七
 31 古い写真の中の友人たち 昭和58・3 学生会誌 O L I V E 17 (広島大学附属福山中・高等学校学友会) P 二
 32 若い日の読書の思い出―私のたのしみ方 昭和58・3 紫陽花(広島大学附属福山中・高等学校図書委員会) P 一
 33 前近代の方言観―「徒然草」と「翁草」(言語表現随想23) 昭和58・6 国語教室¹⁴⁵ (青玄会・青木幹勇編集) P 五〜七
 34 新駅名よ、慎重に(言語表現随想24) 昭和58・10 国語教室¹⁴⁹ (青玄会・青木幹勇編集) P 四〜六
 35 出合いと別離 昭和59・3 学生会誌 O L I V E 18 (広島大学附属福山中・高等学校学友会) P 二
 36 タクシーの耳(言語表現随想25) 昭和59・5 国語教室¹⁵⁶ (青玄会・青木幹勇編集) P 五〜六
 37 全文朗読・暗唱と、「あいさつ」の精神と 昭和59・8 野地潤家先生に学びて(野地潤家先生御退官記念事業会) P 七八〜八〇
 38 樽作りとばら作り 昭和59・5 福山分校通信⁴⁷ (広島大学福山分校広報委員会) P 一四〜一六
 39 「ことばは力ですね!」―六日町中学校は蘇生した―昭和59・9 月刊実践国語教育情報(教育出版センター) P 一〜二
 40 個々に徹する教育―ばら作り名人と樽大工名人と―昭和59・10 附属学校だより² (広島大学附属学校部) P 一
 41 記憶に残る「教師」―小・中学校の先生たち― 昭和60・10 附属学校だより⁶ (広島大学附属学校部) P 一
 42 なつかしい なつかしい 昭和62・11 創立八十周年記念誌(東京都立工芸高等学校) P 七一
 43 巻頭言 意欲的に学習者を育てる教師 昭和63・10 月刊

国語教育研究197 (日本国語教育学会) P 1

X 書評・展望・選評・紹介等

- 1 森山重雄著「封建庶民文学の研究」 昭和36・12 都大論
究1 (東京都立大学国語国文学会) P 一八
- 2 斎藤清衛著「日本文芸思潮全史」 昭和38・12 都大論究
3 (東京都立大学国語国文学会) P 八三
- 3 西鶴研究の展望 昭和39・1 解釈と鑑賞29-1 (至文
堂)
- 4 昭和45年度国語国文学会の展望「近世散文」 昭和46・3
文学・語学59 (三省堂・全国大学国語国文学会)
- 5 井上敬夫著「新しい文章表現力の指導」(全五巻) 昭和
55・3 教育科学国語教育272 (明治図書出版) P 一〇二
- 6 倉沢栄吉著「ことばと教育」 昭和55・8 授業研究212
(明治図書出版) P 一〇七
- 7 全国大学国語教育学会編「講座 国語科教育の探究」(全
3巻) 昭和56・2 月刊国語教育研究105 (日本国語教育学
会) P 五四〜五六
- 8 藤原宏監修・愛媛国語研究会著「双書 国語科関連の指導
法」(全3巻) 昭和57・1 教育科学国語教育287 (明治図
書出版) P 九五
- 9 全国小学校国語教育研究会編「小学校の国語教育」1・2
集 昭和57・1 教育科学国語教育297 (明治図書出版) P

九五

- 10 浜本純逸・森田信義・東和男編「作品別文学教育実践史事
典」 昭和59・4 教育科学国語教育331 (明治図書出版)
P 八七

XI

- 11 第七回青学会賞審査評(共著) 昭和59・12 国語教室163
(青学会・青木幹勇編集) P 三
- 12 第八回青学会賞審査評(共著) 昭和61・1 国語教室176
(青学会・青木幹勇編集) P 三
- 13 第九回青学会賞審査評(共著) 昭和62・1 国語教室188
(青学会・青木幹勇編集) P 三
- 14 第十回青学会賞審査評(共著) 昭和63・3 国語教室202
(青学会・青木幹勇編集) P 三〜四
- 15 世羅博昭著「源氏物語」学習指導の探究」 平成1・11
解釈416・35-11 (教育出版社センター) P 五三
- 16 須貝千里著「対話をひらく文学教育―境界認識の成立―」
平成2・5 国語教室40 (大修館) P 六三
- 17 第十一回青学会賞審査評(共著) 平成3・1 国語教室
236 (青学会・青木幹勇編集)
- 1 大学用 国語教育教科書等
- 1 小学校国語科教育法(共著) 昭和50・1 桜楓社(熊沢
龍・中西昇・野地潤家編)

2 中学校・高等学校国語科教育法(共著) 昭和54・4 桜

楓社(中西昇・野地潤家・湊吉正編)

3 小学校国語科教育法・新版(共著) 昭和54・4 桜楓社

(中西昇・野地潤家・湊吉正編)

4 新版国語教育学研究(共著) 昭和56・5 学芸図書(全

国大学国語教育学会編著)

5 中学校国語科教材研究演習(共著) 昭和57・4 くろし

お出版(大河原忠造・小田迪夫・草部典一編著)

6 国語科教授法実践必携(国語教育叢書15)(共著) 昭和

58・8 解积学会編著(教育出版センタ)

7 中学校・高等学校国語科教育法概説(共著) 平成2・1

有精堂(倉沢栄吉・田近洵一・大平浩哉編) P八八〜九四

第六節「古典I・II」、「古典講読」の学習指導

XII 小・中・高校教科書等

1 小学校国語科教科書(共著) 学校図書

2 中学校国語科教科書(共著) 学校図書

3 高等学校国語科教科書(共著) 学校図書

4 近代日本の文学I 戦後の軌跡(共著) 昭和47・5 く

ろしお出版

5 中学校副教材集 新潟県の文学(全9集) 昭和49・7

52・1 学校図書北越支社

VIII 校歌・市民歌・オペラ等

1 橋田小学校(作詞) 昭和45・11・3 久住和磨 新潟県

(作曲者) 五泉市

2 村上第一中学校(作詞) 昭和46・3・15 久住和磨 新

潟県村上市

3 坂井輪幼稚園(作詞) 昭和46・10・27 久住和磨 新潟

県新潟市

4 三田小学校(作詞) 昭和47・7・24 久住和磨 新潟県

朝日村

5 小針中学校(作詞) 昭和47・10・25 久住和磨 新潟県

新潟市

6 新通小学校(作詞) 昭和47・11・2 小野豪夫 新潟県

新潟市

7 山北南中学校(作詞) 昭和48・3・10 久住和磨 新潟

県山北町

8 青山小学校(作詞) 昭和48・10・27 久住和磨 新潟県

新潟市

9 村上市民歌(補作) 昭和49 (原作) 猪林正一 阿部昌

彦 新潟県村上市

10 村上市民歌(補作) 昭和49 (原作) 山路進一 山貝

三郎 新潟県村上市

11 豊浦中学校(作詞) 昭和50・4・1 久住和磨 新潟県

- 豊浦町
- 12 長岡J Cスクール(作詞) 昭和50・7・5 浮橋忠理
新潟県長岡市
- 13 燕南幼稚園(作詞) 昭和50・10・18 久住和磨 新潟県
燕市
- 14 蒲萄小学校(作詞) 昭和50・10・26 大滝雄志 新潟県
朝日村
- 15 豊栄市民歌(補作) 昭和50・11・1 久住和磨 (原
作) 丸山高司 新潟県豊栄市
- 16 村松町民歌(修訂) 昭和50・11・3 佐藤峰雄 新潟県
村松町
- 17 立仏小学校(作詞) 昭和51・2・27 久住和磨 新潟県
黒崎町
- 18 五十嵐小学校(作詞) 昭和51・3・2 久住和磨 新潟
県新潟市
- 19 東中野山小学校(作詞) 昭和51・10・30 久住和磨 新
潟県新潟市
- 20 内海府小学校(作詞) 昭和51・11・17 久住和磨 新潟
県両津市
- 21 新津第三小学校(作詞) 昭和53・2・25 久住和磨 新
潟県新津市
- 22 黒川中学校(補作) 昭和53・4・6 (原作) 栗沢喜司
久住和磨 新潟県黒川村
- 23 葛塚東小学校(作詞) 昭和53・5・8 久住和磨 新潟
県新潟市
- 24 新潟信用金庫(作詞) 昭和53・10・23 久住和磨 新潟
県新潟市
- 25 坂井東小学校(作詞) 昭和53・11・1 久住和磨 新潟
県新潟市
- 26 六日市小学校(作詞) 昭和53・11・5 久住和磨 新潟
県長岡市
- 27 巻南小学校(作詞) 昭和53・11・20 久住和磨 新潟県
巻町
- 28 吉田看護学校(作詞) 昭和54・3・13 久住和磨 新潟
県吉田町
- 29 オペラ小川未明原作「赤いろうそくと人魚」(脚色) 昭
和54・10・14 久住和磨 新潟市制90周年・音楽都市宣言
10周年記念
- 30 東曾野木小学校(作詞) 昭和54・10・20 久住和磨 新
潟県新潟市
- 31 南中野山小学校(作詞) 昭和54・10・27 久住和磨 新
潟県新潟市
- 32 鹿瀬中学校(作詞) 昭和55・4・7 久住和磨 新潟県
鹿瀬町
- 33 新発田中央高等学校応援歌(作詞) 昭和55・7・12 久
住和磨 新潟県新発田市
- 34 東石山中学校(作詞) 昭和55・11・1 久住和磨 新潟
県新潟市

- 35 東青山小学校（作詞） 昭和55・11・8 久住和磨 新潟
 県新潟市
- 36 よみがえる草戸千軒（作詞） 昭和57・5・15 三好啓士
 草戸千軒遺跡研究所設立9周年
- 37 坂井東小学校（作詞） 昭和57・11・6 久住和磨 新潟
 県新潟市
- 38 福岡県立柏陵高等学校（補訂） 昭和58・4・6 宮崎昇
 （原作）前田和慶 福岡県福岡市
- 39 磯松中学校（作詞） 昭和58・9・16 久住和磨 広島県
 東広島市
- 40 高陽東高等学校校友歌（作詞） 昭和58・11・8 益田遙
 広島県広島市
- 41 分水北小学校（作詞） 昭和61・2・22 久住和磨 新潟
 県分水町
- 42 寺泊高等学校（作詞） 昭和61・11・13 久住和磨 新潟
 県寺泊町
- 43 新潟大学教育学部附属養護学校（作詞） 昭和62・7・12
 久住和磨 新潟県新潟市
- 44 大之首頭（作詞） 昭和62・9・27 林下静子 広島県安
 芸津町
- 45 新潟青陵高等学校（作詞） 昭和62・10・3 久住和磨
 新潟県新潟市
- 46 東豊小学校（作詞） 平成1・3・20 久住和磨 新潟県
 新発田市